

国立大学法人静岡大学の役職員の報酬・給与等について

I 役員報酬等について

1 役員報酬についての基本方針に関する事項

① 平成23年度における役員報酬についての業績反映のさせ方

国立大学法人静岡大学役員報酬規程により、期末特別手当において、国立大学法人評価委員会の業績結果を勘案し、その者の業績に応じ、学長がその額の100分の10の範囲内でこれを増減できる。

② 役員報酬基準の改定内容

法人の長

改定なし

理事

改定なし

理事(非常勤)

改定なし

監事

改定なし

監事(非常勤)

改定なし

2 役員の報酬等の支給状況

役名	平成23年度年間報酬等の総額				就任・退任の状況		前職
	千円	報酬(給与) 千円	賞与 千円	その他(内容) 千円	就任	退任	
法人の長	16,989	11,760	4,365	588 276 (地域調整手当) (単身赴任手当)			
A理事	13,512	9,360	3,474	468 210 (地域調整手当) (通勤手当)			
B理事	13,302	9,360	3,474	468 (地域調整手当)			
C理事	13,926	9,360	3,474	468 624 (地域調整手当) (通勤手当)			
D理事	14,716	9,360	3,712	1,272 24 348 (地域調整手当) (通勤手当) (単身赴任手当)			◇
A監事 (非常勤)	2,400	2,400		()		3月31日	
B監事 (非常勤)	4,800	4,800		()			

【注記1】「地域調整手当」とは、民間の賃金水準が本法人より高い地域に在勤している役員に支給しているものである。

【注記2】「前職」欄の「◇」は、役員出向者(国家公務員退職手当法第8条第1項の規定に基づき、国立大学法人役員となるため国家公務員を退職し、引き続き役員として在職する者)であることを示す。

3 役員の退職手当の支給状況(平成23年度中に退職手当を支給された退職者の状況)

区分	支給額(総額) 千円	法人での在職期間 年 月	退職年月日	業績勘案率	摘要	前職
法人の長					該当者なし	
理事					該当者なし	
監事					該当者なし	

II 職員給与について

1 職員給与についての基本方針に関する事項

① 人件費管理の基本方針

中期目標期間中の予算の年度展開を参考に、教職員の適正な規模と配置を図りつつ、人件費総額の抑制に努める。
人件費を効率的に運用するため人件費管理計画による管理を継続する。

② 職員給与決定の基本方針

ア 給与水準の決定に際しての考慮事項とその考え方

国家公務員の給与水準を充分考慮し、本学の財政状況を踏まえ決定する。

イ 職員の発揮した能率又は職員の勤務成績の給与への反映方法についての考え方

昇給、昇格及び勤勉手当の成績率の判定にあたっては、教職員の勤務成績を考慮し、決定する。

〔能率、勤務成績が反映される給与の内容〕

給与種目	制度の内容
賞与:勤勉手当 (査定分)	基準日以前6月以内の期間における勤務成績に応じて、決定される支給割合(成績率)を決定する。
昇給	5段階の昇給区分を設定して、勤務成績に応じて、昇給号給数を決定し昇給させることができる。
昇格	勤務成績が良好で、かつ昇格基準に達している場合は、1級上位の級に昇格させることができる。

ウ 平成23年度における給与制度の主な改正点

特になし

2 職員給与の支給状況

① 職種別支給状況

区分	人員	平均年齢	平成23年度の年間給与額(平均)			
			総額	うち所定内		うち賞与
					うち通勤手当	
常勤職員	人 982	歳 47.2	千円 7,584	千円 5,623	千円 97	千円 1,961
事務・技術	人 255	歳 44.5	千円 5,616	千円 4,226	千円 109	千円 1,390
教育職種 (大学教員)	人 616	歳 49.5	千円 8,589	千円 6,325	千円 93	千円 2,264
技能・労務職種	人 1	歳	千円	千円	千円	千円
教育職種 (附属特別支援学校教員)	人 22	歳 36.5	千円 6,352	千円 4,803	千円 72	千円 1,549
教育職種 (附属義務教育学校教員)	人 77	歳 39.7	千円 6,560	千円 4,963	千円 104	千円 1,597
その他医療職種 (医療技術職員)	人 4	歳 50.3	千円 5,614	千円 4,220	千円 111	千円 1,394
その他医療職種 (看護師)	人 5	歳 46.3	千円 5,296	千円 3,970	千円 32	千円 1,326
指定職種	人 2	歳	千円	千円	千円	千円

非常勤職員	人 36	歳 43.3	千円 5,481	千円 5,398	千円 41	千円 83
事務・技術	人 3	歳 57.2	千円 4,092	千円 3,097	千円 34	千円 995
教育職種 (大学教員)	人 該当者なし	歳	千円	千円	千円	千円
その他医療職種 (看護師)	人 該当者なし	歳	千円	千円	千円	千円
特任事務職員	人 2	歳	千円	千円	千円	千円
特任教員	人 21	歳 44.4	千円 6,417	千円 6,417	千円 40	千円 0
学術研究員	人 10	歳 35.5	千円 4,299	千円 4,299	千円 43	千円 0

【注1】区分「在外職員」、「任期付職員」、「再任用職員」は該当者がいないため記載を省略した。

【注2】職種「医療職種(病院医師)」、「医療職種(病院看護師)」は、該当者がいないため記載を省略した。

【注3】「技能・労務職種」とは、自動車運転手の職種を示す。

【注4】「教育職種(附属義務教育学校教員)」には、附属幼稚園教員を含む。

【注5】「指定職種」とは、極めて高度な専門的知識及び資格等をもって教育研究に従事する職種を示す。

【注6】常勤職員の「技能・労務職種」及び「指定職種」については、該当者が2人以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、人数以外は記載していない。

【注7】常勤職員については、在外職員、任期付職員及び再任用職員を除く。

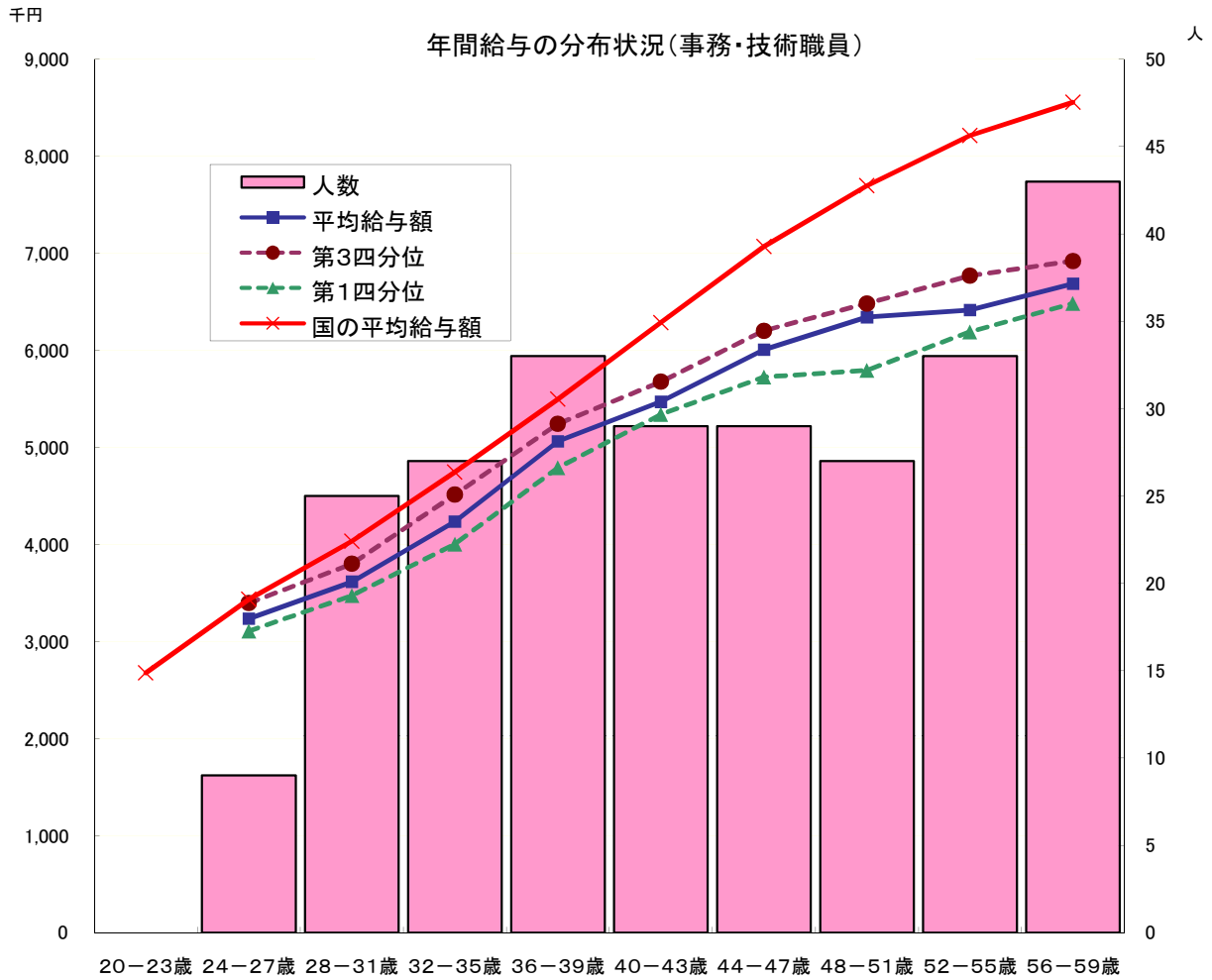
【注8】非常勤職員の「特任事務職員」については、該当者が2人のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、人数以外は記載していない。

【注9】「特任事務職員」とは、特定のプロジェクトにおいて高い専門性を必要とする事務又は技術に従事する非常勤職員の職種を示す。

【注10】「特任教員」とは、特定のプロジェクト又は教育等に従事する非常勤教員の職種を示す。

【注11】「学術研究員」とは、特定の研究プロジェクト、共同研究等に従事する非常勤研究員の職種を示す。

② 年間給与の分布状況(事務・技術職員／教育職員(大学教員))
 [在外職員、任期付職員及び再任用職員を除く。以下、⑤まで同じ。]

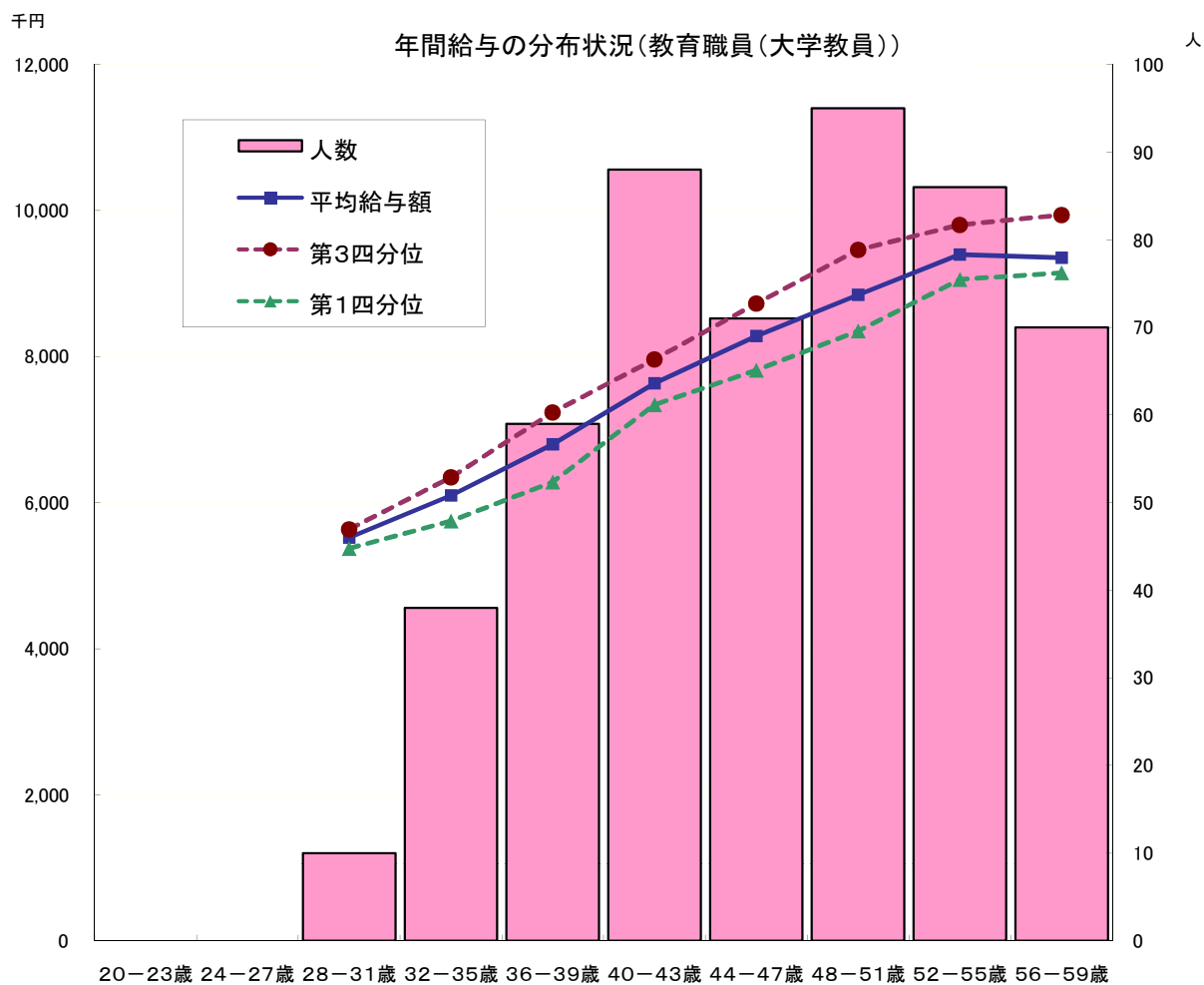


注:①の年間給与額から通勤手当を除いた状況である。以下、⑤まで同じ。

(事務・技術職員)

分布状況を示すグループ	人員	平均年齢	四分位	
			第1分位	第3分位
課長	20人	54.8歳	6,859千円	7,019千円
副課長	30人	54.0歳	6,351千円	6,785千円
係長	121人	46.9歳	5,475千円	6,252千円
係員	58人	31.6歳	3,475千円	4,147千円

【注】「課長」には、「事務長」「室長」を含む。「副課長」には、「事務長補佐」「専門員」「技術専門員」を含む。
 「係長」には、「専門職員」「技術専門職員」を含む。「係員」には、「技術職員」を含む。



(教育職員(大学教員))

分布状況を示すグループ	人員	平均年齢	四分位	
			第1四分位	第3四分位
教授	330	55.2	9,086	10,089
准教授	207	44.2	7,376	8,187

③ 職級別在職状況等(平成24年4月1日現在)(事務・技術職員／教育職員(大学教員))

(事務・技術職員)

区分	計	10級	9級	8級	7級	6級
標準的な職位		局長	局長	局長 部長	部長	課長
人員 (割合)	255 (100%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.4%)	5 (2.0%)
年齢 (最高～最低)		}	}	}	}	59 }
所定内 給与年額 (最高～最低)		}	}	}	}	6,031 }
年間 給与額 (最高～最低)		}	}	}	}	8,161 }
区分		5級	4級	3級	2級	1級
標準的な職位		課長 副課長	副課長 係長	係長 主任	主任 係員	係員
人員 (割合)		16 (6.3%)	54 (21.2%)	116 (45.5%)	47 (18.4%)	16 (6.3%)
年齢 (最高～最低)		58 }	59 }	59 }	53 }	31 }
所定内 給与年額 (最高～最低)		5,788 }	5,377 }	4,898 }	3,723 }	2,977 }
年間 給与額 (最高～最低)		7,643 }	7,262 }	6,496 }	4,823 }	3,878 }
		6,485	5,681	4,326	3,359	3,079

【注】7級における該当者が2人以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、「年齢(最高～最低)」以下の事項について記載していない。

(教育職員(大学教員))

区分	計	6級	5級	4級	3級	2級	1級
標準的な職位		教授	教授	准教授	講師	助教 助手	教務職員
人員 (割合)	616 (100%)	0 (0%)	330 (53.6%)	207 (33.6%)	32 (5.2%)	43 (7.0%)	4 (0.6%)
年齢 (最高～最低)			64 }	64 }	63 }	64 }	59 }
所定内 給与年額 (最高～最低)			7,999 }	6,802 }	5,967 }	5,398 }	4,553 }
年間 給与額 (最高～最低)			11,206 }	9,164 }	8,165 }	7,180 }	6,083 }
			7,044	5,361	5,298	5,176	5,886

④ 賞与(平成23年度)における査定部分の比率(事務・技術職員／教育職員(大学教員))

(事務・技術職員)

区分		夏季(6月)	冬季(12月)	計
管理職員	一律支給分(期末相当)	% 64.5	% 66.4	% 65.5
	査定支給分(勤勉相当)(平均)	% 35.5	% 33.6	% 34.5
	最高～最低	% 43.7～32.9	% 48.3～30.6	% 46.2～31.8
一般職員	一律支給分(期末相当)	% 64.8	% 67.3	% 66.1
	査定支給分(勤勉相当)(平均)	% 35.2	% 32.7	% 33.9
	最高～最低	% 42.5～31.7	% 39.7～29.4	% 39.3～30.6

(教育職員(大学教員))

区分		夏季(6月)	冬季(12月)	計
管理職員	一律支給分(期末相当)	% 57.8	% 60.5	% 59.2
	査定支給分(勤勉相当)(平均)	% 42.2	% 39.5	% 40.8
	最高～最低	% 49.5～33.2	% 49.0～31.5	% 47.0～34.0
一般職員	一律支給分(期末相当)	% 64.7	% 67.3	% 66.0
	査定支給分(勤勉相当)(平均)	% 35.5	% 32.7	% 34.0
	最高～最低	% 42.5～32.6	% 39.7～28.2	% 41.0～31.1

⑤ 職員と国家公務員及び他の国立大学法人等との給与水準(年額)の比較指標(事務・技術職員／教育職員(大学教員))

(事務・技術職員)

対国家公務員(行政職(一))

83.8

対他の国立大学法人等

96.6

(教育職員(大学教員))

対他の国立大学法人等

98.0

注：当法人の年齢別人員構成をウエイトに用い、当法人の給与を国の給与水準(「対他の国立大学法人等」においては、すべての国立大学法人等を一つの法人とみなした場合の給与水準)に置き換えた場合の給与水準を100として、法人が現に支給している給与費から算出される指数をいい、人事院において算出

給与水準の比較指標について参考となる事項

○事務・技術職員

項目	内容	
指数の状況	対国家公務員 83.8	
	参考	地域勘案 89.3
		学歴勘案 84.0
	地域・学歴勘案 89.4	
国に比べて給与水準が高くなっている定量的な理由	【主務大臣の検証結果】 給与水準の比較指標では国家公務員の水準未滿となっていること等から給与水準は適正であると考え。引き続き適正な給与水準の維持に努めていきたい。	
給与水準の適切性の検証	【国からの財政支出について】 支出予算の総額に占める国からの財政支出の割合 57.43 % 国からの財政支出額 10,713,431千円 支出予算の総額 18,655,563千円（平成23年度予算） 【検証結果】 国家公務員との比較指数が100以下なので、適正である。	
講ずる措置	現行の給与水準を維持していくよう努める。	

○教育職員(大学教員)と国家公務員との給与水準の比較指標 95.5

(注)上記比較指標は、法人化前の国の教育職(一)と行政職(一)の年収比率を基礎に、平成23年度の教育職員(大学教員)と国の行政職(一)の年収比率を比較して算出した指数である。

〔 なお、平成19年度までは、教育職員(大学教員)と国家公務員(平成15年度の教育職(一))との給与水準(年額)の比較指標である。 〕

Ⅲ 総人件費について

区 分	当年度 (平成23年度)	前年度 (平成22年度)	比較増△減	中期目標期間開始時(平成22 年度)からの増△減
	千円	千円	千円 (%)	千円 (%)
給与、報酬等支給総額 (A)	8,791,024	8,895,699	△104,675 (△1.2)	△104,675 (△1.2)
退職手当支給額 (B)	1,164,265	975,990	188,275 (19.3)	188,275 (19.3)
非常勤役職員等給与 (C)	1,333,910	1,274,442	59,468 (4.7)	59,468 (4.7)
福利厚生費 (D)	1,224,191	1,172,349	51,842 (4.4)	51,842 (4.4)
最広義人件費 (A+B+C+D)	12,513,390	12,318,480	194,910 (1.6)	194,910 (1.6)

【注】C欄「非常勤役職員等給与」においては、受託研究費その他競争的資金等により雇用される職員に係る費用及び人材派遣契約に係る費用等を含んでいるため、財務諸表附属明細書の「17役員及び教職員の給与の明細」における非常勤の合計額と一致しない。

総人件費について参考となる事項

「給与、報酬等支給総額」について

平成23年1月からキャンパス間における地域調整手当の格差の是正のため、支給率の低い浜松市、島田市、藤枝市にかかる地域調整手当の支給率について1%の特別加算措置を実施したが、教員の人件費管理方式の導入による新規採用数の管理に加え、大学院改組、学部改組の検討中ということもあり、教員の新規補充を留保するという状況から大学教員数の減少があり、前年度と比較すると1.2%の減である。

「最広義人件費」について

常勤教員数の減少により「給与・報酬等支給総額」が前年比1.2%減少しているが、前年度末の定年退職者が多かったことから、退職手当支給額が19.3%増加していることに加え、特定のプロジェクトの教育、研究に従事する「特任教員」「学術研究員」といった非常勤職種での雇用人数の増加に伴い、最広義の人件費としては前年度と比較すると1.6%増加している。

「行政改革の重要方針」による人件費削減の取り組みの状況

中期目標・中期計画においては、「簡素で効率的な政府を実現するための行政改革の推進に関する法律」(平成18年法律第47号)に基づき、国家公務員に準じた人権費改革に取り組み、平成18年度からの5年間に於いて△5%以上の人件費削減を行う。更に、「経済財政運営と構造改革に関する基本方針2006」(平成18年7月7日閣議決定)に基づき、国家公務員の改革を踏まえ、人件費改革を平成23年度まで継続する。

【主務大臣の検証結果】

平成22年度までの5年間で5%以上削減を達成し、平成23年度も人件費改革を継続しており問題ないと考える。

総人件費改革の取組状況

年 度	基準年度 (平成17年度)	平成18 年度	平成19 年度	平成20 年度	平成21 年度	平成22 年度
給与、報酬等支給総額 (千円)	10,368,067	9,892,484	9,682,042	9,583,861	9,164,403	8,895,699
人件費削減率 (%)		△ 4.6	△ 6.6	△ 7.6	△ 11.6	△ 14.2
人件費削減率(補正值) (%)		△ 4.6	△ 7.3	△ 8.3	△ 9.9	△ 11.0

年 度	平成23 年度					
給与、報酬等支給総額 (千円)	8,791,024					
人件費削減率 (%)	△ 15.2					
人件費削減率(補正值) (%)	△ 11.8					

【注1】基準年度(平成17年度)の給与、報酬等支給総額は、法人移行時の人件費予算相当額を基礎に算出した平成17年度人件費予算相当額である。

【注2】「人件費削減率(補正值)」とは、「行政改革の重要方針」(平成17年12月24日閣議決定)による人事院勧告を踏まえた官民の給与較差に基づく給与改定分を除いた削減率であり、平成18年、平成19年、平成20年、平成21年、平成22年、平成23年の行政職(一)職員の年間平均給与の増減率は、それぞれ0%、0.7%、0%、▲2.4%、▲1.5%、▲0.23%である。

IV 法人が必要と認める事項

国家公務員の給与の改定及び臨時特例に関する法律の施行に関連した対応状況

- ・役員報酬について
平成24年7月から実施
- ・職員の給与について
平成24年7月から実施